

進路講話

みんな違って みんないい ～「夢」という花を咲かせましょう♪～

本校・訪問教育部：進路指導主事

2023年1月25日（水）、本校の卒業生である西村泉さんに来校していただき、進路講話「みんな違って みんないい～『夢』という花を咲かせましょう～」を行っていただきました！

西村さんは、進行性の筋疾患である脊髄性筋萎縮症という重い難病を持ちながらも、**重度訪問介護制度**をうまく活用しながら、**一人暮らし**をされています。本校教育部の在校生たちは、いつか自立生活を送りたいという気持ちがあるので、どんな話を聴かせていただけるかととても楽しみにしていました。

また、西村さんは東京にある分身ロボットカフェ「**DAWN**」でお仕事をされています。
「DAWN」では、病気や障がいなどで外出が困難な方々が、分身ロボットである「OriHime」を操縦して、お客様の接客をしたり、飲み物を配膳したりしています。初めて存在を知った方は、まるで SF 映画の話のように聞こえるかもしれませんね。OriHime を使いながら社会へ参加したり、自己表現したりすることに挑戦している西村さん。なんと、本物の OriHime を持ってきていただきました！講演のあとには、生徒や教員たちもロボットを操縦する体験をさせてもらい、大変盛り上がりました。

さらに、西村さんは「**障害平等研修**ファシリテーターの養成講座」を6か月間受講され、
昨年12月より**障害平等研修ファシリテーター**にもなるなど、大変意欲的に活動されています。「**趣味は新しいことに挑戦すること**」と話す西村さん。色んなお話を聴かせていただいたり、最新の技術に触れさせていただいたりすることで、生徒たちにはたくさんの学びがありました。



▼講演の様子 机の上には分身ロボットの OriHime がある



▼発表資料の一部 パソコンで資料を作成

○西村泉さんの人生 ～地域の小学校から支援学校へ～

西村さんは、生まれてすぐに脊髄性筋萎縮症と診断されました。しかし、地域の小学校に通い、同年代の子どもたちと同じ経験をしたため、西村さんは自身の障がいを意識することはなかったようです。「周囲の子どもや大人が、自然に助けてきてくれていたからだと思います」「そういう環境で過ごさせてもらってありがたいなあと思っています」と振り返った。

小学校六年生から刀根山病院（現：刀根山医療センター）に入院し、刀根山養護学校（現：刀根山支援学校）に入学しました。段々と呼吸器が必要になってきたためです。現在では在宅でも呼吸器を使うことがそんなに珍しくなくなってきましたが、当時は在宅での呼吸器の利用が難しく、入院する必要がありました。

当時の全校生徒は15人くらいだったそうで、現在の在籍数と比較すると、とても多く感じますね。マンツーマンの授業や、楽しい学校行事を経て中学部に進学しました。中学部では、素敵な出会いがありました。音楽の授業を担当されていた菊本先生です。



▼発表の様子



▼西村さんに寄り添い、音楽のすばらしさを教えてくださった菊本先生

○西村泉さんの人生 ～「『夢』という花」～

菊本先生と出会うことで、初めて「歌作り」に挑戦しました。歌作りを通して、自分の思いを言葉にして届けられる楽しさを知りました。代表曲は、「『夢』という花」です。歌詞の一部を紹介します。

誰でもたくさんの種を持って生まれてくる その種を育てるために人は生きていく
 幼い頃から気づかないうちに 小さな種を育ててた 誰もが持つてる 「夢」という花
 お絵かきしたり 歌を歌ったり 本を読んだり かけっこしたり
 小さなことだけど 一歩ずつ 未来へ向かっていた
 たくさん種は持つてるけれど 「夢」という花 咲かせるには どんな力も大切なんだ
 僕は咲かせてみせる どんなときも 明日に向かって

西村泉 「夢」という花 より一部抜粋

「障がい者も健常者も関係なく、自分にとっての夢という花を咲かせてほしいという思いで作った歌です」と話されていました。菊本先生とは現在も親交が深く、各地の学校で一緒に歌を歌う機会があるとのことでした。

Next stage. 退院後の生活

そんな生活が10年近く過ぎると
私のメインの介助をしていていた母親も年齢を重ねます

やはり体力的にしんどそうにする機会が増えてくる
そこで、私は思います

もし、母親に何かあったら私はどうなるんだろう
また入院生活に戻らなくてははいけなくなるのではないかな

My feelings.

家族が元気なうちに
ひとり暮らしを始めよう！



家族の協力が得られるうちに準備を始めよう！→

▼退院後の生活について

○西村泉さんの人生 ～退院後の生活～

高等部を卒業した後も継続して入院生活を送った西村さん。月日が経つのは早く、22歳になっていました。ある日、仲の良い友だちとケンカしてしまったことで気づいたことがありました。「他に話ができる人がいないと気づいたんです」「病院の暮らしに慣れる一方で、仲の良い友だちはどんどん天国へ旅立っていったのです」「ここじゃない。外へ出ようと思いました」と話して下さりました。

決意してから家族や病院と話し合い、生活に必要な制度を学び、7ヶ月後に退院して実家に帰ることができました。朝から夕方まではヘルパーに、夜と休日は家族に介助をしてもらう生活が10年経ちました。

しかし、10年も経つとお母さんの体力面も心配になり、「家族が元気なうちにひとり暮らしの準備を始めよう」と思い立ちました。家族の協力を得ながら、しっかりと準備を進めていくことができました。

Let's imagine



ひとり暮らしは 病院の生活と何が違う

皆さんが思う・想像する違いを
10個考えてみましょう！

まず、3分頭の中でイメージして
その後に交互に1つずつ発表してみ
ましょう！



▼ひとり暮らしと病院の生活は何が違う？（上） 生徒も教員も一緒に考えている様子（下）

○西村泉さんの人生 ～ひとり暮らし～

ひとり暮らしをしたいと思ってから4か月間は、ひとり暮らしをしている先輩に話を聞いたり、住んでみたいと思っている市の障がい者団体に話を聞いたりしながら、住む地域を決めることができました。「体調が悪くなっても病院に通える距離が良い」という思いが一番の決め手になりました。「重度訪問介護制度を24時間確保する」「家を決める」「ヘルパーを確保する」などの課題を、多くの人の力を借りてクリアすることができました。

ここで、西村さんから生徒たちに問いかけがありました。「一人暮らしと病院の生活と何が違うのか」というものでした。生徒たちからは「朝起きることもトイレに行くことも自分から言わないといけない」「緊急時の対応を考えておく必要がある」「自分でルールを決めて守る必要がある」等の答えがありました。



▼どんなに重い障がいがあっても、環境を整えることでたくさんの喜びを感じられると力強く話してくれました

○西村泉さんの人生 ～ロボットカフェで働こう～

ひとり暮らしを始めたことで、部屋のレイアウトをデザインしたり、様々な場所にヘルパーさんとお出かけしたり、のびのび自由に生活を過ごせるようになった西村さん。生活が落ち着い頃、「私に働ける場所はないかな?」と思い、インターネットで仕事を探そうになりました。そんな時に出会ったのが、何らかの事情で外出が困難な方々が分身ロボット「OriHime」のパイロットとして接客をする、分身ロボットカフェ「DAWN」でした。

パイロットたちは、OriHime を操作してお客様に飲食物を提供するだけでなく、お客様とゆっくり会話を楽しむこともできます。「OriHime を操作していると、まるでカフェの中にいるかのような感覚になります」「パイロット同士で仲良くなった人もたくさんいます」「役割があるということで社会とのつながりを持てる」「OriHime のパイロットになれて本当に良かったと心から思っています」と話してくれました。

最後に、「重い障がいがあっても環境を整えることで喜びをたくさん感じられる」「どんな人生も間違いはない」「体力があるうちに行動を起こすことが大切」「みんなそれぞれの夢という花を咲かせてください」など、とても素敵なメッセージを伝えてくれました。



▼iPad のアプリで生徒が OriHime を操作している様子(左) アプリの画面(右)



▼OriHime を抱いて重さ確かめる生徒(左) 西村さんと記念写真(右)

○進路講話を終えて ～OriHime を体験しよう～

講話を聴いて、生徒からは「ひとり暮らしであっても実家暮らしであっても、どれが間違いとかではないと聞くことができて安心しました」「ひとり暮らしをしていく過程を知ることができて、すごいなあ、自分もやっていかねばならないなあと思いました」などの感想がありました。さらに、「ひとり暮らしをするにあたってどんなことに時間がかかりましたか」という質問もありました。西村さんは「一番大変だったのはヘルパーさんの確保ですね。人材が足りない。自分が住みたい場所に、どれだけのヘルパーさんがいるか、事業所があるかを調べないといけません」と答えてくれました。

講話を終えてからは、OriHime を実際に体験しながらゆっくりとお話をする時間を設けていただきました。iPad のアプリで直感的に操作をすることができるため、生徒たちは OriHime の首の角度を調整したり、手を振らせたりするなど、すぐに操作に慣れている様子でした。多目的室の外から操作したり、OriHime を抱いてみて重さ確かめたりするうちに、少しの時間でも OriHime に愛着がわいている様子でした。

現在はロボットカフェのパイロットとしてだけでなく、「障害平等研修ファシリテーター」としても活動されているということも話してくれました。多方面にわたってアクティブに活動をされている西村さんの言葉は、生徒たちの心に大きく響いたことと思います。お忙しい中、本校に来てくださり本当にありがとうございました！